

船舶事故調査報告書

令和元年7月24日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成31年2月18日 11時50分ごろ
発生場所	山口県岩国港第2区 由宇港由宇1号防波堤灯台から真方位000° 2.5海里付近 (概位 北緯34°05.1′ 東経132°13.2′)
事故の概要	漁船勝栄丸は、南南西進中、また、プレジャーボート光は、錨泊中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成31年3月20日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 勝栄丸、3.9トン YG3—62488（漁船登録番号）、個人所有 第270—48210号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 光、5トン未満（長さ5.95m） 273—3709山口、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	A なし B 軽傷 1人（船長B）
損傷	A 球状船首に亀裂、船首部先端の甲板支持柱に曲損 B 操舵室船窓に破損、右舷中央部外板に亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東南東、風力 2、視界 良好 海象：海上 波高 約0.2m、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、いわしの群れを魚群探知機で探しながら約8ノットの対地速力で南南西進中、船長Aが、右舷船首方に認めたB船の右舷側を航行できると思い、魚群探知機の画面に意識を向けていたところ、B船に衝突した。 B船は、船長Bが1人で乗り組み、船首及び船尾からそれぞれ錨を投下し、主機を停止して船首を北方に向け、釣りをしながら錨泊中、船長Bが、右舷船首方に認めたA船が錨泊中のB船を避けると思い、釣りを続けていたところ、A船と衝突した。
分析	A船は、南南西進中、船長Aが、右舷船首方に認めたB船の右舷側を航行できると思い、魚群探知機の画面に意識を向けて航行を続けたことから、B船に向かっていることに気付かず、B船と衝突したものと考えられる。 B船は、錨泊中、船長Bが、右舷船首方に認めたA船が錨泊中のB船を避けると思い、錨泊を続けたことから、B船と衝突したものと考

	えられる。
原因	<p>本事故は、A船が南南西進中、B船が錨泊中、船長Aが、右舷船首方に認めたB船の右舷側を航行できると思い、魚群探知機の画面に意識を向けて航行を続け、また、船長Bが、右舷船首方に認めたA船が錨泊中のB船を避けると思い、錨泊を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中は、魚群探索中においても、周囲の適切な見張りを行うこと。 ・錨泊中であっても、接近する他船が自船に気付いていない可能性を考慮し、注意喚起信号を行うなどの衝突を避けるための措置をとること。